

パンチングメタルメーカーのウチヌキ（本社・神奈川県綾瀬市、社長・中尾健太郎氏）は、疫病を鎮めるとされる妖怪「アマビエ」を描いたグラフィックパンチングメタルのパネルを数百セット製作し、取引先各社へ配付している。写真。新型コロナウイルスの一



「疫病退散」の妖怪「アマビエ」

ウチヌキ

高精細パンチングメタルでパネルに

日も早い終息への願いを込めてパネルを製作。孔径φ（パイ）は1・0ミで孔芯間隔（ピッチ）が1・5ミと非常に細かい高精細のパunching技術を使い、親しみやすいアマビエのキャラクターを再現した。表面にはラミネート処理を施しており、壁に貼るお守りなどに使える。

中尾社長は「今はまたコロナの感染者が再び増えつつある。一日も早いコロナの収束と健康への祈りを込めてパネルを作った」としている。また「コロナ以前とは社会経済活動が大きく変貌している。当社でもスピード感を持って変化に対応していきたい」と話す。

